

関学レインボーウィーク2022  
10周年記念パネルディスカッション

# 「関学レインボーウィークの過去・現在・未来」

2022年5月20日(金)18時から20時@オンライン



## 登壇者 (50音順)

阿部潔

飯塚諒 (モス)

岡嶋千宙

織田佳晃 (織田ちゃん)

小林和香 (和香さん)

酒井美憂

澤田有希子 (司会)

武田丈 (丈先生)

## 【澤田氏】

それでは定刻を過ぎましたので、ただいまからレインボーウィーク 10 周年記念のパネルディスカッションを始めさせていただきますと思います。

司会を担当させていただきます人間福祉学部の澤田と申します。よろしくお願いいたします。

今回、10 周年の記念のイベントとしまして、「関学レインボーウィーク(KGRW)の過去・現在・未来」と題しまして、これまで関学レインボーウィークを支えてくださった皆さんに登壇いただきまして、この関学レインボーウィーク誕生の経緯についてご紹介するとともに、これまでの活動を振り返って今後のあり方について考えていきたいと思っております。

本日、記録のために参加者の皆様の画面を録画・録音させていただいておりますが、参加いただいている皆様については録画・録音は禁止とさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に、レインボーウィークの立ち上げから今まで支えてくださっている武田先生からこれまでの 10 年間で変わったこと・変わらないことを最初に少しお話いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 【武田氏】

そうですね、また第一回のレインボーウィークの時に話をすると思うのですがけれども、一番最初は人権教育研究室のメンバー、特に私と阿部先生が中心となって教員が主催するイベントとしてスタートしたのです。

そのときに登壇してくれた卒業生の方とかが中心になって、僕は二回目は留学で抜けたのですが、阿部先生と引き続き二回目を開催してくれて。その辺りからだんだん主体となるほうに LGBTQ+ の当事者の人たちに入ってもらうようになりました。卒業生であり、だんだん現役生も学部生だとか院生で手伝ってくれる人。そういう人と一緒にやっていく形になって来ていて、先生方も今日司会してくださっている澤田先生だとか榎本先生だとか協力してくださる方も増えていったし、学生も増えていって、何年目かぐらいか今で言うアライというか、LGBTQ セクマイではない学生さんも手伝ってもらうようになってきて。必ずしも最初から上手くメッシュして良い雰囲気やっていたわけではないのですが、いわゆるほんとにこの 10 年、試行錯誤しながらやってきたという感じで。コロナがあったのでこの数年はなかなか大変だったのですが、準備の段階からも当事者の学生とアライの学生が上手く役割分担しながらですが、協力しながらできるようになってきたかなという感じですかね。

これを全部言ったら順番に話していくことなくなってしまうけれど、それに合わせてキャンパスだとか、日本の社会の SOGI に対する理解度なんかが変わっていったというか、理解が深まっていった。勿論完全に深まっているわけじゃないですが、ということもあって、色々中身だとか人間関係だとかが変わってきたのかなという気はします。

こんな感じで良いですか？

## 【澤田氏】

ありがとうございます。武田先生がお話すると全部話してしまいそうなので、ここからは最初、2013 年にレインボーウィークの始まりとなるきっかけを作られて、一期、二期のあたりで活動を作ってくれた小林和香さんにお話いただければと思います。お話しいただく時間は皆さん

にお任せしますので、当時のことを思い出していただいて、きっかけや活動内容、当時の思いなども含めてそれぞれお話いただければ嬉しいと思います。

関西学院大学人間教育研究室主催  
2013年度第1回公開講座  
「関学の中のセクシュアルマイノリティ」  
すべての人が自分らしく振る舞える学びの共同体を目指して

セクシュアルマイノリティの関西学院の現役生・卒業生が語ります  
関西学院で体験したこと、思ったこと  
そして関西学院が、誰もが自分らしく振る舞える  
ラーニングコミュニティ(学びの共同体)になる未来を考えよう

2013年5月17日(金) 15:15～18:00  
関西学院大学 図書館ホール (大学図書館 地下1階)

登壇者 桃助 関西学院大学現役生  
吉川寛 2012年総合政策学部卒業  
小林和香 2008年総合政策学部卒業  
長谷川馨 2012年人間福祉学部卒業

司会 武田丈 人間教育研究室

〈同時開催〉  
セクシュアルマイノリティの  
カプルの生活を撮影した写真展と、  
「いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」  
パネル展  
<http://ameblo.jp/respectwhiteribbon/>  
entry-11440462193.html / (パネル展)  
図書館エントランスホールにて  
5月13日(月)～17日(金)

期間:5月13日(月)～5月17日(金)  
場所:西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館エントランス  
ホール

お問い合わせ 関西学院大学人間教育研究室 TEL 0798-544729 E-mail masah@pkwanet.ac.jp

(2013年第1回KGRWのチラシとプログラム)

### 【小林氏】

まず自己紹介を簡単にさせていただきます。

2007年度の総合政策学部卒業生の小林和香と申します。よろしくお願いいたします。

今日は初期の立ち上げメンバーとしてお話させていただくのですが、私にも結構記憶が曖昧なところがあるので丈先生、阿部先生、モス、織田ちゃんも少し違うよというところがあったらツッコみを入れていただきたいなと思っています。私がずっと喋っていたら面白くないと思うので、色々補足していただくとありがたいです。モスよろしくお願いいたします。

最初になのですけれど、10年続くというのは少し私もそこまで思って立ち上げに関わっていたわけじゃないので、10年間続けてくださったことに、ここにいらっしゃらない方もたくさんサポートしてくださったので10年間だったと思うので、そのことにまずすごく感謝したいなと思っています。

さっき武田先生もおっしゃっていたのですが、関西レインボーウィークって別に最初から何かが用意されていたわけではなかったので、今すごいプログラムが多くて、昨日 Twitter とかで見ていたらプログラムがすごい充実しているとかで話題になっていて、ああ、そんなふうになってもらったり、結構有名な方とかが Twitter で拡散してくださったりして何かそんなふうになったのだなと感慨深いです。

こんな感じでお話して行って大丈夫ですか？澤田先生とかも質問とかしてもらえると助かります。お願いします。

最初どうお話ししようかなと考えていたのですが、どのように始まったかというのを私が覚えている限りお話ししていきたいなと思っています。

そもそも『関学レインボーウィーク』という名前なのですからけれども、第1回はあれですよ、関学レインボーウィークという名前ではなかったのですよね。このチラシを見ていただくと分かると思うのですが、この頃ってまだ LGBTQ という言葉があんまり浸透してなくて、性的マイノリティとかセクシュアルマイノリティという言葉のほうが結構メジャーだった時代なのです。なので、タイトルも LGBTQ って今だったら書くと思うのですが、セクシュアルマイノリティと書いているのは少し時代を感じます。

第1回が関学レインボーウィークという名前じゃなかったのですが、第2回をやった時に何かその時のメンバーとかで話して関学レインボーウィークという名前にして、世界の IDAHO『多様な性に YES の日』というふうに今は広まっていると思うのですが、国際的な記念日の付近にやることで一緒に取り上げてもらいやすくなるし、2回目を第二回関学レインボーウィークとしてしまうことによって2回続いているのだというふうに周囲とか学生さんとか、また、例えば色々と事務的な処理をしていただく職員の方にも「あっ、これって何か続いていくものなのだな」と浸透しやすいかなと思って、『関学レインボーウィーク』という名前にしています。そんな感じだったかなと思うのですが、丈先生いかがですか？

### 【武田氏】

それで合っていると思います。

1年目、これを企画しているときはまさか10年続くようなものになるという思いで準備していたわけではないのですよね。

もともと2013年のきっかけは阿部先生が「武田さん何かやってよ」と言ったことから始まっていると思うのですが、その辺り阿部先生覚えてますか？

### 【阿部氏】

はい、僕も一生懸命10年前を思い出そうと思って打ち合わせ会合があって以降、何か記憶を手繰っているのだけれど、あんまりはっきり思い出せません。今の武田さんの言っているとおりで、ここに直接は関わらなくても間接的に人権教育研究室であったり、また、僕の個人的な知り合いとかのあいだで“こういうことができたらいいよね”と。それは本当に今言ってもらったみたいに当時は今のよう「LGBTQ」という問題意識ではなくて、セクシュアルマイノリティの人たち、本学に直接・間接に関わった人たちの声、思い、そしてやはりどこかこう現役の学生の時に感じたある種の良い意味での怒り、ある種の rage (怒り) みたいなものがあって、そういうものを何とか大学として受け止めることが必要だなと思って、ずっと今まで人権教育研究室の中でそうした課題に取り組んでいた武田さんに振ったという、そういうことが始まりだったかなと思います。だから、本当に今言われたように10年後にこういう形で「10年やってきたよね」なんて振り返ることは当時は絶対誰も考えていないし、とにかく何らかの形でこれをやりたい、そしてまたどこかで教員サイドはやらなければいけないよねという思いから始まったのかな、と今思い出しています。

### 【武田氏】

毎年関学は春秋に人権問題講演会をやっていて、2006年だったか尾辻かな子さん、当時大阪府議会議員をされていて、そこから最初の頃は2年に一度ぐらい LGBT 多様なセクシュアリティのこのテーマで年に一回は講演会をやっていたりだとか、僕が2003年ぐらいからヒューマンセクシュア

リティという授業、今はセクシュアリティと人権になっているのですが、そういう授業をやっていたのですが、そういう授業をやると、当事者の方がお話を来てくれて、学生なんかはやはりすごく色々なことを学んだり感じたりするのだけれども、それが自分のキャンパスで起こっていることだとか、自分の発言がもしかすると傷つけているとか、そういうところまでなかなか思いが馳せないというところで何かできない？って阿部先生に振られたので、今もありますけれど、当時 Cassis（注：関学の非公認の LGBT サークル）が立ち上がっていて、そこでじゃあ実際に今キャンパスに居る現役生の当事者に登壇してもらおうと。どんな思いでキャンパスに居るのか、どんな問題に直面しているのかを語ってもらおうということで Cassis に投げただけけれど、今から考えるとよう無茶なことをしたなと思います。そんなん誰が来るか分からないパネルディスカッションを地下の図書館ホールでやるので誰も反応してくれなかったのですが、唯一やってみようかなと言ってくれたのがここにある桃助さんだったのですね。

桃助さん自身も当日会場へ入ってきてギリギリまで知り合いが中に居ないか、クラスメイトが居ないかを確認して、居ないということで登壇してくれました。桃助さん一人ではパネルディスカッションにならないということで、僕はあんまりはっきり覚えていないのですが、どうやって和香さんにつながったのかな？

登壇者の一人の長谷川さんが僕の元ゼミ生だったから、長谷川さんから連絡がいったのだと思うのだけれど。



(2013 年第 1 回 K G R W のパネルディスカッション)

#### 【小林氏】

長谷川さんと丈先生がつながって連絡を取っていて、長谷川さんと当時の私のパートナーの吉川さんが友達で、そこから私まで来て、少し一緒に何か考えようみたいな感じだったと思います。

#### 【武田氏】



次のスライドに写真展のやつもあるのかな？そうですね、スライドの右上の写真の写真をやって、パネルディスカッションは金曜日の夕方のイベントだったと思うのですが、そのイベントに先駆けて月曜日から金曜日までこの写真展、パネル展も入っていたのかな？これをやって、これに結構感想とかが多かったのではないかな。この写真展は撮ってくれたのが登壇者の一人の長谷川さんで、和香さんとヒロさんを撮ってくれていた写真展で、これに何か結構閲覧者がポストイットで感想コメント書いてくれていたのではないかな。というあたりから何か続けていったほうが良いよねとなったような気がするのですけれど。



(2013年第1回KGRWの写真展&パネル展)

**【小林氏】**

そうですね。少し何かこの写真展から最初の3年間記憶を思い出していたのですが、色々メールをたどったりとかして思い出していたのですが、私がすごく印象に残っているのが1年目と2年目で、その写真展は当時の私のパートナーと二人とも関学生出身であるということで、関学の中にもセクシュアルマイノリティって居るのだよというのを見えるようにしたくて行ったのですが、その次の年には結局当事者の写真展をするのは私は何か違うなと感じて、先生方の写真、教職員の方のメッセージを出すようにしたのです。しかも、あえて顔を出していただく形で。

その経緯を少し振り返っていたのですが、当時2013年からですね。2013年にまた、三田キャンパス出身なので、三田キャンパスでも何かやりたいと思ってKG RAINBOW PROJECTを学祭で行っていました。

その時に、三田のCassisの人とか当時の現役生のアライの学生さんたちと一緒に協力して教員・職員・卒業生からのメッセージを集めましたという展示会をしたのです。

2013年の三田のアクションがどこからつながっているかということ、2010年に最初に登壇していた吉川さんと一緒に三田キャンパスのリサーチフェアというプレゼンテーション大会で「実はあなた

もマイノリティ、関学のセクシュアルマイノリティが本音をつぶやいてみた」という展示をしたのです。その時に関学出身の卒業生と当事者の写真を貼って皆さんに見てもらおうというアクションをしました。

それがどこからつながっているかという、2007年に私が在学中に「実はあなたもマイノリティ」というプレゼンのアクションをしていて、実は何かその辺りから私の中では地続きになって、写真展をして、先生方、当事者ではなくてあえてアライの人たちに写真を前に出してもらおうというのをやったような気がしています。

それで、少し前置きが長くなってしまいますのですけれども、何が言いたいかというと、私が活動を始めた2007年とか活動といえるものではないかもしれませんが、私がLGBTのことで何かアクションを起こし始めたころ、私はまだ自分が当事者だと気づいていなかったのです。それが結構私の中では関学レインボーウィークに関わる姿勢としてすごく大きかったのではないかなと思っていて、色々このあとにも話が続いていく2016年ぐらいのアライと当事者の距離感とかという話とかもあるかなと聞いているのですけれども、そういった中では私はずっとアライの立場なのではないかなと思うのですよね。当事者でもあるけれども、大学生の時に自分は当事者だと気づいていなかったの、その時にボランティアサークルとよさこいサークルに所属していたのですけれども、いかに自分が無知で、どれだけの人を傷つけていたかというのを卒業してから気づいた人なので、どちらにも所属できない気持ちがずっとありました。事前に澤田先生と打ち合わせさせていただいたのですけれども、何か自分の罪を償うために関学でずっと活動していたかなと思います。

そんな中、最初に丈先生から話をいただいて、北山さん（注：人権教育研究室の元職員、2016年5月急逝）とか阿部先生とかもつないでいただいて、北山さんもいつも人権教育研究室の部屋に入っていくと、いつも「なんやあ？」みたいな感じでニコニコしてくださって、「幟作りたい、レインボーの幟が欲しい。2、3本でも良いから作ってほしい」みたいな感じの話をしたら、「いっぱい作ろう」みたいな感じで。確か私2、3本ぐらいで良いですと言ったと思うのですけれども、三田にも置こうみたいな感じでした。すごい量を発注してくださったような気がしています。

私は、私たちが始めたとは絶対思わないのですけれども、受け止めてくださる土壌がすでにそこに関学レインボーウィークという形になる前から受け止めてくださるところがあったから、そのあと続いていったのではないかなとすごい考えます。

第2回のチラシに載っている山本さんという方が吉川さんの後輩で、カミングアウトされた人として登壇してくださったのですけれども、私はこの彩加ちゃんにすごく感謝して、彩加ちゃんが登壇したことがすごく関学レインボーウィークの本質がつまっているように振り返っていて思いました。

というのも、今までずっと当事者ばかりが出てくる中で、初めて当事者ではない立場として、しかも当事者に挟まれながら話してくれて、直前までずっと彩加ちゃんは「私なんかが出て良いのかな？」とずっと言っていて、私は「すごい出てほしい、彩加ちゃんの言葉が絶対伝わることもあるから」と話していて、登壇してくれて、その中で少しうろ覚えなのですけれども彩加ちゃんが、「ずっと自分は友達との会話を当たり前にしてきたけれど、当たり前の会話の中に常に性別のことがあったことに私は気づいていなかった。その中の性別を抜き取った時に、私は人と会話できなくなっちゃったんです」と話してくれたのです。

講演会を観た参加者の大学生、彩加ちゃんと同じ年の子のアンケートを見て、彩加ちゃんのメッセージで、当事者ではないとその時思っている。その子ももしかしたら卒業して、自分が当事者と気付

くかもしれない。そういう人とか、自分は当事者じゃないと思っている人の気持ちが変わる。10%の当事者に気づかせるのではなくて、残りの9割の人たちにしっかりメッセージが届いたのだと。こういうやり方があるのだと2年目はすごい気付かされた感じでした。

すごい長くなっちゃったのですけれど、2年目の講演・パネルセッションは私の中で印象に残っています。すみません、長くなってしまっ



**関学レインボーウィーク**  
2014年5月12日(月)～5月16日(金)

**もっと! colorfulな関学に!**

**■映画上映**  
『Call Me Kuchu ウガンダで、生きる』(2012年 米国・ウガンダ)  
監督: Katherine Fairfax Wright, Malika Zouhali-Worrall

**■パネルセッション&座談会「第2回関学の中のセクシュアルマイノリティ～ひとりひとりの立場でできること～」**  
日 時: 5月15日(木) 15:10～  
場 所: 西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館「光の間」  
登壇者: 広輔 氏(大学4年生)  
りく 氏(同志社大学3年生)  
山本彩加 氏(関西学院大学総合政策学部4年生)  
小林和香 氏(関西学院大学総合政策学部2008年卒)  
白石朋也 氏(立命館大学color-free元代表、4年生)

**■写真展・パネル展**  
OKG RAINBOW PROJECT ～教員・職員・卒業生からのメッセージをあつめました～  
○「いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」パネル展  
期 間: 5月12日(月)～5月16日(金)  
場 所: 西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館エントランスホール

**(■ゲリラライブ)**

(2014年 第2回KGRWのチラシとプログラム)

**【武田氏】**

ありがとうございます。1年目はパネルディスカッションと写真展だけだったのに対して、第2回は色々なプログラムがあるのですけれど、そのあたりは僕はこの年留学していて全くタッチしていないのですが、阿部先生、和香さん2回目のプログラムってどうやって出来ていったのですか？

**【小林氏】**

二回目のプログラムができていった過程ですか？ 過程か。

**【武田氏】**

誰のアイデアとか、上映会しようとかとなったのは？

**【小林氏】**

その時にたぶんミーティングを時々やって、その時に集まったメンバーで、そんな人数も多くなかったので来られたメンバーでその場で「これ良いんじゃない？」と。その時ってたぶん阿部先生、どうかと思うのですが、LGBTのもので使えるソースが少ないというか、例えば、安く公開できる映画も少ないし、この映画にしたいと思ってもそれは高いとかね、ダメだったりとかそんな話なか



ったでしたっけ。

### 【阿部氏】

そうなのですね。今みたいに多くの人が言葉は知っているみたいな状況ではなかったの、とにかくできることをどうやるかみたいなことと、あと、やはり今、和香さんも言ってくれたように北山さんの存在がものすごく大きくて、今言われて僕も思い出したのだけれど、旗もそうだし、そういうものをこっちとしては予算的なことも少し考えちゃうので控えめに言うのだけれど、北山さんは「いや、どうせこれから続けていくなら要るのだからやりましょう！」と言って、かなりそれは彼の立場としてはリスクはあったと思うのだけれど、そういうことをむしろ彼があと押してくれて、僕はそれを会議でこういうことなのでみんなやってみましょうと人権教育研究室で通して行って、幸いなことにメンバーたちもみんな理解があって、じゃあやりましょうということになった。今から振り返るとやはり、さっき和香さんも言われたようにこれを2回目にして去年のものを1回目にしようというアイデアは、僕はすごくある意味それに驚いたのだけれど、そういうやり方があるのだなと思って、そのことが今振り返ると10年続いたことの大きな種だったと思うのですよね。

というのは、2回やればそれこそ北山さんとしては「いや、じゃあ3回目以降も要るのだから今買っちゃいましょう」と言えたし、また、我々も大学に向けて「これは恒常的にやっていくものなのだから、ちゃんとリスペクトしてね」って言えた。そこから学長や院長にも声をかけて、そのあとオープンイベントみたいなものが生まれていったので、やはり武田さんが最初にまずは1回目を立ち上げていただいて、2回目というものを1回目を振り返る形で開催した。ここはやはり今振り返ると、大きなことが起きていたのだな。

それが可能になったのは、やはりその時に、それぞれの立場は違っても、セクシュアル・マイノリティをめぐる問題に真摯に向き合って、関心を持って、自分ができることをそれぞれの人がやっていたことが大きかったのかなと思いをしました。

### 【小林氏】

そうですね、阿部先生が言ってくださったことでほぼ当時の出来事は思い出したのですけれど、さっきも言おうと思っていたのですけれど、顔を出せない人が圧倒的に多かったのですよ。

私が個人的にやり取りをしていた職員の方で当事者だけれど、絶対にクローズで働いているから私しかやり取りしていないけれど、その人のアイデアがめっちゃ来るみたいなとか、教員の方の中にもいらっしやいましたし、学生さんでCassisのメンバーも顔出しできないから、その時はたぶんそんなにラインとかバンバンしていなかったと思うので、メールとかで聞いたりとかして、たまに会って聞いて、それを阿部先生とかが居るミーティングで何かこんなふうに言っているみたいな話とかを進めていったと思うのですよね。

その方のエピソードもすごく印象に残っていて、絶対に顔も出したいくないし、職場にも絶対に知られたくないけれど、ステッカーを作ろうという話になった時に、絶対にステッカー欲しいと言ってくださって、その人自身も関学レインボーウィークが進んでいくごとに変わっていったのですよね。

社員証につけられる5ミリぐらいの小ささが良いってすごいこだわって測ったよとかとって連絡くださって、私が個人的にすごくやりたいのは大きく変えるのではなくて、本当に一人でも救われたと思えば良いなことだったので、すごく目立つようなステッカーにはならないかもしれないけれど、その人が喜んでくれたら良いなと思ってステッカーを北山さんにお問い合わせしたら「じゃあ、

いっぱい作ろう]みたいな感じで「意外と安いじゃないか」とかといっていっぱい作ってくださって、2年目か3年目に初めて交流会をした年だったと思うのですけれど。それって3年目？

**【武田氏】**

3年目じゃないかな？

**【阿部氏】**

うん。

**【小林氏】**

確かその時に織田ちゃんも来てくれたのじゃないかなと思うのですが、何かその時も学生さんがどれだけ集まるか分からないから、他校の子も OK にしようとか、教職員の LGBT 当事者の人も OK にしようとかして、何人か来てくれたと思うのですが、その時に私が織田ちゃんは来てくれて、織田ちゃんが確か入学したてだったのですよね。織田ですって連絡くださって、私はすごくやってよかったと思った瞬間でした。新入生でまだ3年とかしかしてなくて、今みたいに全然有名でもない状態でたどり着いてくれた人が居るのがすごく印象に残っています。

**【武田氏】**

織田ちゃんその辺どうですか？

**【織田氏】**

そうですね、たぶんこの二回目の時からパネルセッションのあとの座談会。この辺りでたぶん交流会があった記憶があつて。

**【小林氏】**

非公開にしていた。

**【阿部氏】**

そうそう、インフォーマルだったのですよね、その時は確か。色々それぞれの事情があるので、オープンにしちゃうとかえって来にくいというので、何となくイベントが終わったあとは交流会へ、みたいな雰囲気ふうだったと思います。

**【織田氏】**

二次会みたいな、余った人だとかが行く感じですね。それは覚えています。

何で行ったのかで言うと、確かにそんなにイベント自体広報がなかった気がしていて、私は個人的にはすごくチャペルにしょっちゅう行っていたからか知らないけれど、情報を知った気がして、それで流れで行ったことをすごく覚えています。

入学した時に関学にレインボーウィークがあるとか、別にそれがきっかけで入った人ではなかったので、“あるんや”ぐらいで。その当時は Cassis がほぼ動いていなかった。ホームページが数年前から止まっている状態で、何もつながりがなかったので行こうかなと思って行きました。

**【小林氏】**

織田ちゃんが来てくれたときすごく覚えています。すごい夜も暗くて暗闇の中から織田ちゃんが現れて「誰？」って感じで、「ああ織田さんですか？」みたいな、そんなだったと思います。

少し話し戻っちゃうのですが、やはり榎本先生とかもフラッグ見ながら泣いてた姿とかも私すごい印象で、そうなんですよね、中芝でやっている規模とかもまだ2年目とかすごい小さい。中芝（中央芝生）でやったの3年目ですよね？

**【武田氏】**

いや2年目にもゲリラライブやっているよね。

**【織田氏】**

うん。



(2014年第2回KGRWのゲリラライブ&パネルセッションの会場案内)

**【小林氏】**

この感じの規模だったのですが、私のその関学レインボーウィークの中芝っていうのが結構。私三田生（注：三田キャンパスの学生）なので中芝にはそんなに行かないけど、中芝でランチするっていうのができないって Cassis の子達が言っていて、それがすごい嫌だったのですよね。みんな憧れて中芝でランチするの良くなって言って、関学いいなって言って来る子もいるのに、みんなに明かせない部屋でみんなで集まって喋ってる。普通に中芝でみんなで好きな友達と好きな話しできたら良いなと思ったのが、中芝でみんなで細々とやっているのも良いなってすごい思いましたね。そういう小さい嬉しいエピソードとか、その中芝でこのイベントやっているときに、学生さんが職員の人に自

分のメールアドレス書いた付箋を何かサッと渡して去って行ったり、そういうエピソードってたぶん今もずっとあるんだろうなってすごい思っていて、今も10年経ちましたけど、そういう部分が丁寧につながれていることが私は非常に嬉しいなっていうふうに思いますね。

関学レインボーウィークは、私は3年しか関わってなかったですけど、関学レインボーウィークって何が良いのかなって今日ちょっと考えていたんですけども、当時良かったものは、事前のミーティングでも話ししていたんですけど、そもそもLGBTの事ではないって言ったらおかしいんですけど、LGBTだけのためのレインボーウィークではなくなっていくと思うのですよね。このレインボーウィークが始まっていった前の私達が全然知らない時代に、ほかの外国ルーツとか部落とか、あと障害者運動とか、いろんな運動があって、たまたま私が卒業したときにそういう運動がたくさん関学とか西宮の中で行われていった土壌があって、畑が結構耕されていたからレインボーフラッグ立てようと思ったときに立ったというか、何かそういうことを忘れてたくないなっていう気持ちでいます。

関学レインボーウィークの良いところっていうのは、この10年間で本当最初丈先生が言ってたようにすごい色んなことがあって、運動っていうのは大体紆余曲折あって進んでいって、こう引いたり戻ったりしながらするものだと思うのですが、全員がレインボーウィークの当事者であるっていうスタンス、それがずっと変わらないことが素晴らしいなと思っています。

将来LGBTに関する差別が今より大分マシになったとしても、たぶんそのレインボーウィークっていうものの意味、そのダイバーシティでみんなが当事者である。そうでない人も、そうである人も、そうかもしれない人も含めて、いきやすい関学って何かっていうものをみんなで一緒に考えるっていうことは、関わっている人も関わっていない人も全員が当事者であるっていうスタンスがずっとこの先も続いていってほしいなと思っています。何だかちょっと最後はそれが言いたかったんですけど。すみません。

#### 【武田氏】

モスはいつから関わったんかな？

#### 【飯塚氏】

僕は2回目からです。オープニングイベントだったかな。ゲリラライブだったですか？当時の名前は。

和香さんに声をかけていただいて、参加してっていう形でつながったと思います。

#### 【小林氏】

そうですね。ゲリラライブって今思ったら何かすごいよね、何か名前がね。ゲリラなんかいいみたいな。

#### 【澤田氏】

正式名称がゲリラライブなんですか。何かすごいですよね。

#### 【武田氏】

プログラムに載せなかったよね。そういうことやると言わずに。

### 【澤田氏】


ああなるほど、なるほど。だからゲリラなんですね。分かりました。打樋先生（現・社会学部教授）もギターを弾いてライブに参加されているのですよね。

### 【小林氏】

そうです、そうです。先生方も全然ギター持って立って出て来てすごい私ビックリして。「先生ギターするんや」みたいな。でもすごい良かった。知る人が集まって来て、集まって来る感じもすごい私は感慨深いなと思います。

### 【武田氏】

これが第2回で、僕は留学行っていたので関わってなかったのですが、メッセージ送ったぐらいだったと思うのですが。帰って来たら、帰って来たので武田さんやってって言われて、1年目はパネルディスカッションだけだったのが2年目に映画とかいろいろやっていたので、3年目はえらいこっちゃってなって。ちょっとプログラム3回目のやつ出してもらえますか。3回目の時は和香さんとかに関わってもらって、でも一通り映画上映会とか、それから何をやったかな。



第3回 関学 レインボーウィーク 開催!

誰にとっても、いきやすい関学に!

2015.5.11~15

キャンパス内の虹のような多様な「カラー」を認め合い、誰にとってもいきやすい「学びの共同体」を目指すことを宣言した関西学院。そのために、あなたは何をしますか？

- オープニングイベント(学長・院長挨拶)  
日時:5月11日(月)12:40~13:30  
場所:西宮上ヶ原キャンパス 中央芝生(時計台前)
- 映画上映『チョコレートドーナツ』(2012年・米国)  
日時:5月12日(火)16:50~19:00  
場所:西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館ホール
- パネル展示  
OKG RAINBOW PROJECT ~教職員からのメッセージあつめました~  
○「いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」パネル展

期間:5月11日(月)~5月15日(金)  
場所:西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館エントランスホール  
神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ インフォメーションホール  
西宮聖和キャンパス 山川記念館2階チャペル横フロア

(■WEB調査(学内の性的マイノリティの現状把握))

(2015年第3回KGRWのチラシとプログラム)

### 【小林氏】

3回目はですね、2015年ですよ?

### 【武田氏】

うん。



**【小林氏】**

2015年です。2015年です。私がチラシ作った時のやつでオープニングイベント。

**【阿部氏】**

そうそう。あの時からオープニングイベントをやったんだよね。

**【武田氏】**

そうです。

**【小林氏】**

『チョコレートドーナツ』の上映と、あと教職員のメッセージと、『いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン』のパネル展でしたね。

**【武田氏】**

そうそう、この時はオープニングイベントをちゃんとプログラムとして位置付けて、院長・学長に挨拶をしてもらったんやね。一部の人権教育研究室のメンバーだとか、この実行委員会のメンバーだけがやっているってことじゃなくて、やはり学院全体・大学全体でやっているんだってことを示すべきだということ、オープニングイベント中央芝生の、この写真かな。



(2015年第3回KGRWのオープニングイベント)

**【小林氏】**

そうですね。

**【武田氏】**

これね。これで当時の院長のグルーベル先生が挨拶されて、右隣には村田学長が写っていますけれども。ということをやったのと、実はこの年に Web 調査もした。和香さんがやろうって言ってくれたんだというふうに記憶していますけど。

**【小林氏】**

私の中からはもうちょっと忘れてしまっています。やったことはすごい覚えています。私がやったんでしたっけ？

**【武田氏】**

提案してくれたと思うけどな。違うかな？モスが提案してくれたん？

**【飯塚氏】**

和香さんが調査やって、そのデータを僕がもらって引き継いだと思います。

**【武田氏】**

モスがまとめてくれてたんだよね？

**【飯塚氏】**

若干、記憶があやふやですけど、そうだったと思います。

**【武田氏】**

Web 調査で LGBTQ の学生がキャンパスでどういう体験をしているのかっていうようなことを聞いたんやね。教員だとか職員だとか、あるいは他の学生から中傷を受けたりだとか、そういうのを見聞きしたりしたとか、カミングアウトも半分ぐらいの人がカミングアウトできてないっていうような結果だったと思うのですけども。

**【小林氏】**

3 回目は、急に規模がちょっと大きくなった感じになって、たぶん 2016 年の話しにつながっていくと思うのですけど。大きくなって、当事者が前に出るとバレてしまうぐらいの規模になってきたのがちょっと懸念としてあったような気がしますね。何かこうちょっと関わりたいけど、関わりと結構身バレしちゃうみたい。そういうこともありましたよね。そのオープニングイベントも結構規模が大きいし、虹が目立つし、当事者の子たちは結局遠巻きで見ているとかっていうのがちょっとあった年だったように思います。

**【武田氏】**

この年はパネルディスカッションをやらなかったんやね？

**【小林氏】**

やらなかったと思う。

**【武田氏】**

やはりなかなか Cassis の学生に登壇してもらってということも出来なかったし、僕がもうやはり頼めないなと思ったので学生に。で、パネルディスカッションやらなかったのだと思うのですが、交流会はどんな感じだったのですか？この時は。覚えている？

**【小林氏】**

サンドイッチをみんなで食べたのはこの年だったかな。北山さんがいっぱい。

**【武田氏】**

この年からオハラホールでやった？

**【小林氏】**

そうやったような気がするのですが、私ちょっとこの年はあまり体調も良くなくて思い出せない感じですね。

**【武田氏】**

僕が少し覚えているのは、この年の Web 調査で 100 人強ぐらいの方だったかな？答えてくれたんですね。こういうことに困っているだとか、こういう経験をしたいっていうのを Web 調査でやったのだけど、協力してくれた人から「これ答えてどうなんねん」というような意見を聞いて、調査するだけではダメだなんていうのをすごく思いました。僕自身このレインボーウィークやっていて毎年毎年学ぶことがすごく多いのですが、それはすごく僕の心に刺さっていて、やはりキャンパス変えていかなあかんと思ったのです。だから 2016 年もまた Web 調査やったのだけど、じゃあどう変えていったらいいのかって聞いたのが 2016 年の Web 調査。

**【飯塚氏】**

そうです。要望について中心に聞いていこうってやったのが 2016 年度の調査ですね。

**【武田氏】**

これだけ困っているっていうだけじゃなくて、やはりどう変えていくのかっていうのをしっかり聞いて、それを大学に訴えていこうとなったのが 2016 年のレインボーウィークかなと思いますね。

2016 年のプログラムって出ますか？これね。この時はチャペルをやったのと「多様な性を祝う集い」はこの年から始まっているんですかね。



**KG rainbowweek 2016**  
第4回 関西レインボーウィーク

みんなが気づけば、関学も変わる！

関西学院に集う一人ひとりが、キャンパスの中の虹のようなそれぞれの多様性に気づき、考え、認め合えば、誰もが自分らしく振舞える、今よりもっと素敵なキャンパスに変わるはず。

2016.5.16~20 西宮上ヶ原キャンパス 西宮聖和キャンパス  
2016.5.23~27 神戸三田キャンパス

- オープニングイベント@西宮上ヶ原 & 神戸三田キャンパス
- 大学主催春季人権問題講演会  
演題:「LGBTが生きやすい世の中にするため、大学は何ができるか」  
講師:原 ミナ汰 氏(NPO法人共生社会をつくるセクシュアルマイノリティ支援全国ネットワーク代表理事)
- 映画上映会  
『パレードへようこそ』『チョコレートドーナツ』『ミルク』『パレードへようこそ』@西宮上ヶ原キャンパス & 『パレードへようこそ』『ミルク』@神戸三田キャンパス
- レインボーウィークを覚えて 学部合同礼拝@ランバス記念礼拝堂
- 多様な性を祝う集い@ランバス記念礼拝堂
- 交流会 & ぶっちゃけトークセッション
- パネル展@3キャンパス  
○教職員からのメッセージと昨年度のWEB調査の結果概要  
○学生からのメッセージ
- LGBT関係図書の展示@大学図書館
- WEB調査(学内の性的マイノリティのニーズおよび改善案の把握)

(2016 年第 4 回 KGRW のチラシとプログラム)

**【武田氏】**

岡嶋さん、この年から参加してたんでしたっけ。

**【岡嶋氏】**

実行委員会みたいなので参加したのはこの年からです。はい。

**【武田氏】**

何か「多様な性を祝う集い」の何か思い出をちょっと是非。

**【岡嶋氏】**

そうですね。私、入学したのは実はレインボーウィークが始まった 2013 年だったのですけれど、2013 年・2014 年と私存在すら知らなかったというか、意識してなかったのです。2015 年のさつき和香さんがおっしゃっていた少し大きくなった時から、“あ！そんなのがあるんだ”って思って参加してみて、“うわぁこれすごい！”って思って、むしろ私は当事者というか、そちら側で参加して、ものすごく感動した、中芝のオープニングイベントで、“めっちゃ感動した、これすごい”っていうのを覚えていて、それから“ああ今度自分も関わりたいな”っていうふうに思うようになったのです。

私はそのおそらく関学で 1 番小さい学部と言われている神学部にいたのですが、関学でレインボーウィークをすることの意義って何なんだろうなって考えた時に、やっぱり神学部っていうこともあったので、キリスト教主義の大学がやっているレインボーウィークっていうことを 1 つ特色として挙げられるんじゃないかなと思ったのです。じゃあキリスト教主義っていうことでやるってことは何かそれなりの特色っていうか特徴のあるものやりたいなっていうふうに思っていて、私教会にも通っていたのですが、教会であまり居心地の良い思いはしてなかったのです。何

かそういう形で教会っていうか、キリスト教と関わるような場所で居心地の良く、誰もが入れやすいような場所って作りたいなと思って。じゃあ関学レインボーウィークでそういう場所作ったらいいじゃんっていうふうに思いまして、実行委員会で提案させていただいたっていう感じです。

最初はどのような反応があるかなと思って結構ビクビクしてたんですけど、丈先生とかモスとかが、「ああ良いですね」みたいな感じで反応してくれて、じゃあ礼拝の要素をもったものをやりましょうということになって。じゃあ今関学でやられてる礼拝って何だろうと思ったら、1限と2限の間ですずっと行われているチャペルの時間がある。そのチャペルの時間に学部合同礼拝みたいな形でしょうということで、そのプログラムを設けました。それがレインボーウィークを覚えて学部合同礼拝です。それとは別で関学にいる人だけじゃなくて外部の人も集いやすいような場所がほしいな、それも何か礼拝形式以外のものでもやりたいなっていうことになって、もう1個別のプログラム「多様な性を祝う集い」っていうことをやろうということになったのです。礼拝と言うと少し敷居が高すぎてあまり来ないかなと思ったので、時間も金曜日の夜に設定して集いっていう名前にして、みんなで集まって何かキリスト教っぽいというか、何かあまりこういうのは言いづらいとか私も好きじゃないですけども、神様に誰もが1人1人が愛されてるよと。1人1人がその姿で創られたのであって、その姿で生きて良いんだよっていうことを神様の愛を通して知れるって機会を作ろうということで、この二つのプログラムを作りました。そんな感じですかね。

ランバス記念礼拝堂の写真が合同礼拝のほうですね。チャペルアワーの時間にあつたやつで、おそらくこんなに入るチャペルアワーは私の記憶ではこれ初めてだったのかなと思います。司式というか、お話しして下さっているのは神学部の中道基夫先生で、お名前が出ている榎本てる子先生のいとこさんです。中道先生とか、あと2015年の中芝の写真のところの左側にいるたぶんこれ Jeffrey Mensendiek 先生だと思うのですが、Mensendiek 先生とかにめっちゃプログラムとかいろいろ考えてもらって、みんなで作った礼拝及び「多様な性を祝う集い」でした。少し宣伝というか、「多様な性を祝う集い」の経緯とかに関しては『礼拝と音楽』っていう雑誌がありまして、これに書いてます。『礼拝と音楽 2019年秋号 183号』ですね。これに少し書いてるのでそちらを購入していただければもっと詳しいことが分かるかなと思います。以上です。





(2016年第4回KGRWの「学部合同礼拝@ランバス記念礼拝堂」)

**【武田氏】**

はい、ありがとうございます。やっぱりこの辺り榎本てるちゃんがいる、神学部の学生が関わってくれて、毎年してたわけじゃないですけど「多様な性を祝う集い」は去年も薄井さんがやってくれていてるので続いていっているの、また復活したらいいなと。やっぱり中道先生が今の院長やけどレインボーのやつをつけて礼拝して下さるっていうのはやっぱりすごい素敵だもんね、これね。これ出来るっていうのは関学のすごくいいところだな。本当にキリスト教の大学でそんなん出来るんですかって時々聞かれるけど、本当に宣教師の先生もそうだし、宗教主事の先生が本当にサポートティブにこのレインボーウィーク支えて下さっているの、ここまで来たのかなっていうのありますけどね。

何か交流会とかぶっちゃけトークセッションで思い出とかあれば。この年から図書館も協力して下さいましたね。モスとか織田ちゃんこの年は。

**【飯塚氏】**

僕の思い出としてはやっぱり量的な調査をずっとやっていた感じです。当時研究室で一緒だった千原さんっていう量的な調査の詳しい方がいらっしゃって、その人と一緒に質問項目作ったり分析したりっていうのをやっていた記憶があります。その内容をパネル展示とか報告書を出したりとかして、出来るだけキャンパスの人の声を聞いていってデータを集めるっていうことをやっていたのが、印象的だったかなですね。他にも声を集めるという意味では、チャペルの話しがあったのですが、チャペルで顔出しが出来ない人でメッセージだけ読んでほしいっていうことを言われたことがあって、それが叶ったのがすごく嬉しかったです。

その人もレインボーウィークでいろいろなメッセージを伝えたいけど、やっぱり自分は顔出し出来ないからっていうことで手紙みたいに書いてもらって、それを代読してもらったってというのがすごく印象的だったなって思います。

### 【織田氏】

あんまり自分はたぶん 2015 から参加者側じゃないほうでたぶん関わり始めていて、たぶんもう交流会とかでも基本的に私がやったのはメールの管理をほとんどやっていただけなのですが、交流会を誰が来れるようにするかみたいな話しとかもずっとあったと思うのですが、あえてその当事者だけ、あるいは当事者かもしれない人だけみたいな感じで企画をしておく事で、そこでしか来れない人をどうにか来させるじゃないけど、来れるようにするしかないねということ、その時関わっていたメンバーとはやってたかなっていうので、やはり基本的にこの交流会とか出て Cassis が何かどうにか、たぶん向こうランチ会のほうですね。あれもメールの管理を、ごめんなさいメールの管理しかしてないかもしれないですね。ちょっとそういった 1 度だけランチ会来た人とかにも交流会あるけどみたいなので声掛けたりとかそういうふうにしながら、そのぶっちゃけトークセッションって何でやった。当事者の声を集めるみたいな意図やったんか、ちょっとあんまり私も覚えてないんですけど、そういうのでいろんな学生の声を聞くことにはなって、次の 2017 年の話しにたぶんつながってくると思うんですけど、いまいち当事者とのギャップみたいな話しがやっぱりすごい感じるようになったのがたぶん 2015 年・2016 年ぐらいかなっていう気がしますね。そんな感じですかね。

### 【武田氏】

たぶんさっきも言ったけど 2015 年の web 調査で啓発だけだとか、ニーズ調査だけでは不十分で変えていきたいという思いがたぶん僕の中にすごくあったんだと思う。だからぶっちゃけトークセッションで、是非学生の意見を聞きたいというのがあって、実際に 2016 年の web 調査で男女別の健康診断に配慮してほしいだとか、それからカウンセリングルームのカウンセラーの人が理解がないだとか、それからトイレの事と、それからもう 1 個何だっけ。まあそういうのを交渉しだしたのがこの 2016 年が終わった後でしたね。大学と交渉しだした時に、もっと多目的トイレ・誰でもトイレをキャンパスに作ってほしいって言うことを訴えていって、そうやって交渉している中で何かガイドラインみたいなのがありと作りやすいんですよって言うようなことを、まあ言い訳かもしれないですが、実際総務の人に言われたので、それやったら作ってやろうじゃないかっていうことで澤田先生・阿部先生にも協力いただいて「インクルーシブ・コミュニティ実現のための行動指針」を作成することにしました。結局発表されたのは 2020 年年 4 月やったね。3~4 年かかったんですけど、それを認めてもらったっていう経緯があります。もう 1 回申し訳ないけど 2016 年のリーフレット出してもらえますか。ここでの僕の思い出はそういうキャンパスを変えたいって思いがこの時すごくあったのだと思うのですが、この年のテーマ、毎年テーマみんなで募集して決めているのですが、『みんなが気付けば、関学も変わる！』ってというのは、僕はもう本当にみんなに知ってもらってキャンパスを変えたいって思いがあったので、僕が無理矢理これにしたのですね。だけど、あとで織田ちゃんに私たちは何を気づけばいいんだっていうことを突っ込まれて、完全にやはり僕の中にはその (LGBTQ+ 当事者の) 視点が抜けてるっていうのをすごく痛感させられた。良い学びでしたそれは。というのがすごく思い出に残ってます。

**【岡嶋氏】**

すみません、2016年の第4回でもう1つのエポックメイキングというか、覚えといたほうが良いなと思うのが、確かこの年にマスコットさんが誕生したんだと思います。

**【武田氏】**

「にじろー」この年やったっけ。

**【岡嶋氏】**

じゃなかったっけ？

**【飯塚氏】**

この年だったと思う。

**【岡嶋氏】**

いろいろ募集して。

**【澤田氏】**

これです。

**【岡嶋氏】**

そう、その子その子。それはもうエポックメイキングなので。

**【武田氏】**

そうやね。もうこの年に名前発表したんだっけ。

**【岡嶋氏】**

あれどうでした？

**【澤田氏】**

名前まだついてないんじゃないですか。

**【武田氏】**

名前は翌年に発表したかな。

**【澤田氏】**

見た目もちょっと違いますもんね。

**【飯塚氏】**

すみません、書いているうちに少しデザインが変わっていったのかもしれないですけど、初めの原形はこんな感じのキャラクター。マスコットキャラクターが出来た経緯は、運営の人でキャラクター



(2016年ポスターに掲載されたデザイン)



(投票により「にじろー」に決定した  
2017年リーフレットに掲載したデザイン)

作ろうよっていう話しになって、案を持ち寄って作ったみたいな感じです。“レインボークマクマ”か“にじろー”とか名前の候補はいくつかでましたね。

### 【武田氏】

結構接戦やったね、投票しているときね、「レインボークマクマ」と「にじろー」ね。

はい、2017年に移りますか。2017は、ずっとパネルディスカッションやってこなくて、僕がよう頼まなかったのですけれども、この2017年を準備している時にCassisのメンバーからは是非パネルディスカッションやりたいっていう申し出があったんですね。その辺り少し織田ちゃんが良いのか、酒井さんが良いのか、ぜひ聞かせてほしいな。

	<p>2017年5月15日(月)～5月19日(金) 西宮上ヶ原C・西宮聖和C 2017年5月22日(月)～5月26日(金) 神戸三田C</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■オープニングイベント@西宮上ヶ原キャンパス 中央芝生</li><li>■パネルディスカッション「当事者の座談会:学生生活とLGBT」</li><li>■大学主催春季人権問題講演会 演 題:「多様な性を考える～一人ひとりのセクシュアリティ～」 講 師:川西 寿美子 氏</li><li>■ぶっちゃけトークセッション&amp;交流会</li><li>■多様な性を祝う集い</li><li>■映画上映会～映画を通じて多様な性を学ぶ～ 『ジェンダー・マリアージュ』『ウェディング・バンケット』@西宮上ヶ原 キャンパス&amp;神戸三田キャンパス</li><li>■パネル展@3キャンパス</li><li>■LGBT関連図書のコーナー展示@大学図書館</li></ul>
--	---

(2017年第5回KGRWのチラシとプログラム)

### 【織田氏】

たぶん、酒井さんはこの時はちょうど入学年度やったと思うので、そうやんね？たぶん1回生で聞きに来てたんちがう？

### 【酒井氏】

そうです、そうです。2017年が一番最初の年になります、入学の年なので。

### 【織田氏】

そうやね。たぶん始まった経緯としては結構何やろう、さっきもあったようにみんながあの中に包摂されない感じとかがあったりとか、そのミーティングの場とかで当事者は何がして欲しいん？みたいな、たぶんそんなの言われた。直接的ではないけど何かそういう空気感があった気がしていて、じゃあうちら喋るみたいな感じでノリで始まったような気がするんですけど。やっぱりその自分達

のニーズを伝え、そんなにたぶんこうしてほしいねんみたいな話しを具体的にしてるわけではないし、まあそのあとは Cassis のメンバーを集めていく上でその当事者の話しをすることで当事者も聞きに来るし、新しいつながりが出来たら良いかなぐらいの感じで始めたような気はしています。その自分が関わり始めた年って、今度 Cassis が全然人がいなかったんですけど、まあ徐々に徐々に増えて、たぶんレインボーウィークでの広報とかもあって、もともと Cassis しかなかったつながりが、そのレインボーウィーク経由やったり、いろんなつながりの中で広がっていったから、話せる人も絶対話せないって人ももちろんいれば、別に話しても良いよみたいな人もいて、じゃあ話せる人で話そうかっていう感じにはなっていたかなと思っていて、メンバーはたぶん当時現役生を私を含めてあと 2 人と、あとは Cassis を創設した卒業生の方に登壇してもらって、特に話す内容そんなにきっちり決めてなかったから、その Cassis を創設した経緯で話してくれませんか？というのでほぼ丸投げした記憶はあってっていうので一応始まってはいます。酒井さんはそれは参加して聞いていただいてどうだった？

### 【酒井氏】

いやすみません、私 2017 年から入学なんで、その 2016 年までにそのあんまりパネルディスカッション自体あんまりやっている年とやっていなかった年があるというのがあんまり知らなくて、2017 年の時初めてだったと思うのですが、初めてパネルディスカッションをしてちゃんとやっていたと思うのですが、関学自体に私が入学しようと思った経緯自体が関学がこういうレインボーウィークとかをやっているっていうのをネットで見て、入学をしたんですよね。なので、もうずっと受け継がれてきたものなのかなみたいな、ずっとパネルディスカッションとかも当然やってみたいイメージだったんですけど、2016 年までやってなくて 2017 年の Cassis が出来上がった経緯についてとかの話しをすごいしっかりされていたんで、なので織田さんとか無茶振りされてやったみたいにおっしゃっていたんですけど、普通にすごく面白いなと思いながら聞いていました。その先輩たちの話し聞いていて、次来年 2018 年からは自分達もやった。私もやってみたいなっていうふうになりました。

### 【武田氏】

そのレインボーウィークが始まった頃は、やっぱり、なかなか Cassis の人が登壇するのが怖かったという状況だったのだけれど、この 2017 年の時は、織田ちゃんも含めた 3 人が登壇してくれたという、そのへんの抵抗はなかったのでしょうか？誰が聞きに来るのか分からないわけでしょ？

### 【織田氏】

そうですね、まあ確かに。

ただ、場所がなんか図書館ホールのあるところに 5 限終わりにわざわざ聞きに来る人で冷やかしはあんまり居ないんちゃう？という。そんなにたぶんですけども、まああとは、何だろうなあ。聞きに来る人も同じく Cassis の人を味方ではないけれども、連れてきたりとかして守ってくれるじゃないけれども、何かあったときに、「おかしくない？」ってたぶん突っ込める人が来るだろうなという予測はあったし、あとは結構 Cassis で集まったりしている会話の中って、関学の中だけじゃないけれど、この社会の理不尽さじゃないけれども、「すごい超ノンケなんだけど」みたいなお話をしたりする場なんですね。そういう愚痴を言って、なんか生きづらいねみたいな。これをもうちょっと



ラフな感じで話すことがたぶんトークテーマの9割ぐらいを占めているので、その延長線上の、だから私たちが普段話している愚痴を延長線上で人前で喋っているだけみたいな、感じだったり、そんなにまあ“いや、ちょっと喋るの怖いわ”みたいな感じではなかったかなという気はしますね。

### 【武田氏】

この学生によるトークセッションはやっぱりすごく関学レインボーウィークの中で一番魅力的なプログラムだと僕は思うのですけれども、この年だったか、2018年だったか忘れたけれども、トークセッションの中で「きらきらアライ」という言葉がでてきて僕の中ではすごく思い出に残っているのですけれども、ちょっと「きらきらアライ」のことを。

### 【酒井氏】

私も知っているということだから2018年とか、どうなんだろう。あれかもしれないですけれども。なんかそれこそ今さっき織田さんが言ってくださったのですけれども、Cassisで毎週ランチ会をしてランチ会に来てもらっていたのですけれども、そこで出ていたのが、「ノンケ」、性的マジョリティでマイノリティではなくてマジョリティの人たちのことをノンケって指すのですが、ノンケの人たちの愚痴とか生き辛いよねっていうことを話してたのですよ。「きらきらアライ」ってのは何かというと、まず「アライ」っていうのが性的マジョリティ。マイノリティじゃないけど性的マイノリティではないのだけれど、私たちのマイノリティを支えるというか、受け入れるよみたいな感じの支援者たちを「アライ」というのですけれども、そこはアライの人たちばかりかなと思っていたら、すごい正義感をかざってきて、「もっと、こうしたほうが良いんじゃないの?」「もっと、みんなに知ってもらったほうが良いんじゃないの?」とか、正義感をもって、私たちに良いようにめっちゃ言うてくるけれども、なんか私たちは別に、そんな性的マイノリティであることを公言したいわけではないので、なんかそこを協力的だとは思って接してくれているのだけれども、サポーターズに接してくれているのですけれども、私たちの本当の気持ちを理解してくれていなかったりする人がいて、そこを「きらきらアライ」だというふうに言って。だから難しいですよ。その「きらきらアライ」の話題が確かパネルディスカッションでも話をした気がします。



2018年5月14日(月)～5月18日(金)西宮上ヶ原C・西宮聖和C  
2018年5月21日(月)～5月25日(金)神戸三田キャンパス

■オープニングイベント「バンドHIV」によるお話と演奏@西宮上ヶ原C

■パネル展@3キャンパス

■LGBT関連図書の展示@大学図書館

■映画上映会

「ロシアの同性愛者のいま／過酷な現実」「あしたの Pasta はアルデンテ」  
「逃げ遅れる人々／東日本大震災と障害者」「アルバート氏の人生」@西宮上ヶ原C

■交流会

■人権問題講演会

演 題:「なぜ性の用語はだいたい横文字なのか」  
講 師: 牧村 朝子 氏(タレント・文筆家)

■パネルディスカッション「当事者の座談会: 学生生活とLGBT」

■映画上映「私はワタシ ～over the rainbow～」&トーク

(2018年 第6回 KGRW のチラシとプログラム)

**【武田氏】**

はい、ありがとうございます。

**【織田氏】**

やっぱり、なんか上から目線だね、なんか、すごい理解してあげる、みたいなね。

**【酒井氏】**

理解してあげる、受け入れてあげる、みたいな。

**【織田氏】**

何様なん？ってちょっと思ったりとかね。

やはり理解してあげるという時にさ、アンタはなんか、その自分の立場性とかを顧みずになんかこう、うまい言葉がないですけれども、『ノーバディ』ですね。健常者を『ノーバディ』という、なんかその何もない感じなんなんっていうのが日々痛感して。なんかその、レインボー イェ～イみたいな空気感の中で、さっきもあったような中芝に結局近づけなかったりとか、そういうお祭り騒ぎみたいな中で、「いや、でも、うちの『生きづらさ』改善されてくない？」みたいな感覚があって、なんかちょっとそれを揶揄して「きらきらアライ」となって、適切ではない言葉かもしれないけれども、それぐらいの言葉でしか表現できない何かがあったかなとは思いますがね。

**【武田氏】**

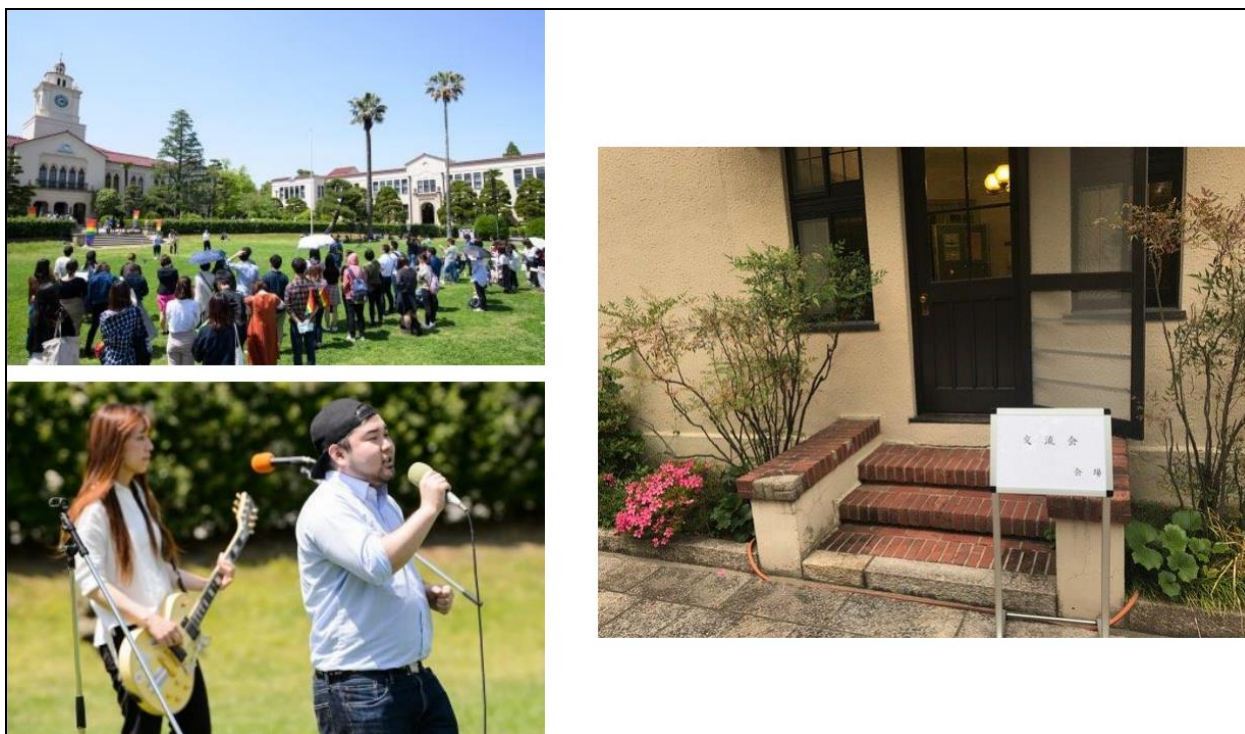
でも、やっぱりそれはすごく重要な指摘だと僕は思ったし、僕も自分の中できらきらアライの部分を見つめ直して気をつけないといけないなというふうにはずっと思っているんで、すごく良い指摘

だなど。まあ LGBT ブームとかね、LGBT ウォッシュとか、そういうことにならないようにというのは常に心がけなければいけないなと思っています。

この年はオープニングイベントに『バンド HIV』にきていただいていますね。この年のテーマの一つにもなっていますけれども、「ZERO DISCRIMINATION」という、すごく素敵な曲があって、それを演奏してもらったというのも思い出になっていますね。

それから、映画上映会「私はワタシ～over the rainbow～」。

左の写真がバンド HIV で、右がオハラホールの交流会の時の写真です。この年にはじめて、バンド HIV で Lily(宮田りりい)さんが来てくれて、それからずっとコロナの時少し中止になったけれども。今年も、Lily さんがきんトラ (きんきトランス・ミーティング) として演奏をしてくださいました。



(2018 年第 6 回 KGRW のオープニングイベント & 交流会の入口)

#### 【岡嶋氏】

Lily さん・バンド HIV は 2016 年の「多様な性を祝う集い」の時にも登場をしてくれています。

#### 【武田氏】

そうやね。そこでやってもらったからオープニングに是非ということだったんやね。

Lily さんを紹介してもらったのもそうだし、この年に、「私はワタシ ～over the rainbow～」映画上映会で東ちづるさんと映画監督と、お亡くなりになってすごく残念ですけども、長谷川博史さんとお越しになられて映画上映会とトークセッションを行ったのですけれども、バンド HIV をレインボーウィークにつなげてくれたのもてるちゃんだし、「私はワタシ ～over the rainbow～」の上映会ができたというのも全部てるちゃんがつなげてくれた。もうこの時はだいぶ体調が悪かった時だったよね。

5 限後にやったのかな、これね。こちらが参加者を動員しなくても、関学会館が結構いっぱいになるぐらい人が来てくださいましたね。



(2018 年第 6 回 K G R W の映画「私はワタシ」上映会&トーク)

**【澤田氏】**

牧村さんの講演会もすごくたくさん来てくださいましたよね。

**【武田氏】**

ああ。

**【澤田氏】**

これも学生さんの提案で「まきむうを呼びたい!」とって。これも関学会館にかなり人がたくさん入ったように覚えています。

**【武田氏】**

お名前を忘れたけれども、Cassis のメンバーやったよね? 提案してくれたのは。違ったかな? まきむうを是非と言ってくれたのは。覚えてない? 忘れた。

2019 年度はどんなんやったっけ? そうそう。このテーマはどうやって決まったんですか? 『This is Me ワタシを束ねないで』。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オープニングイベント@西宮上ヶ原C お話と演奏: Ken with Lily</li> <li>■パネル展@3キャンパス</li> <li>■LGBT関連図書のコナー展示@3C図書館&amp;千里国際キャンパス図書館</li> <li>■映画上映会 「私はワタシ」「最初で最後のキス」@西宮上ヶ原C</li> <li>■交流会</li> <li>■大学主催春季人権問題講演会 演 題:「自分らしく」 講 師: 玉木 幸則 氏</li> <li>■パネルディスカッション「当事者の座談会: 学生生活とLGBT」</li> <li>■多様な性を祝う集い@ランバス記念礼拝堂</li> </ul>
--	---

(2019年 第7回KGRWのチラシとプログラム)

**【澤田氏】**

私は、この頃すごく印象的だったのが、私と武田先生とか、その時は竹林さんかな？事務の方が入っておられて、私たちが良いと思うコピーと学生達を選ぶコピーが全然違うというので、なんていうのでしょうか、世代間ギャップ。このデザインとかも全部学生さん達が推してくれているものが投票で選ばれていくというのがすごく印象に残っています。これ、ワタシを束ねないでは確か詩ですよ。酒井さんかな？私を束ねないで、と誰がいつてくださったんでしたっけ？

**【織田氏】**

絶対酒井さんだったと思います。  
すごいこのフレーズ気に入っていらっしまったと思う。

**【澤田氏】**

そうそう、そうそう。

**【酒井氏】**

私は気に入ったんですけども、「This is Me」は提案はしてないです。だから誰かが言った、一つの中であって、「あっ、良いんじゃない？」とは確かにになりました。すみません。全然覚えていなくて。

**【澤田氏】**

酒井さんがたぶん「ワタシを束ねないで」という詩をいつてくれて・・・



**【酒井氏】**

そうです、そうです。

**【澤田氏】**

うん。で、「This is Me」はその当時のミュージカルの映画で、すごいいろんなメッセージが詰め込まれたこの2019年です。

**【武田氏】**

あとは、この年は何やろうね。

**【酒井氏】**

バルーンで作ったのって何年でしたっけ？

**【武田氏】**

あっ、バルーンの時ね、これね。



(2019年第7回KGRWのオープニングイベント)

**【酒井氏】**

あっそうだ。頑張って、なんかこう確かバルーンになった、私がい出しっぺだと思えるのですけれども、レインボーウィークで旗は毎年立ってたと思うのですけれども、何か象徴的なシンボリックな物って大々的には出していなかったのかなとずっと思っていて、チラッとあれをみたら「あっ、レインボーウィークやってるんだ！」というのが旗以外になんかあれば良いな」というふうに思って、まあバルーンを使ってこのアーチをつくってシンボリックさせようと思ったんですけれども。風船作

るのすごい大変で、めっちゃ割れるし。で、ちょっと最近めっちゃ記念のもののできているので、あっ良いなと思って観ていました。

**【武田氏】**

この年に、これは KeNyo さんと Lily さんが写っているけれども、もうこの年に関学レインボーウィークのテーマソングの「ぐるぐる踊る」を作ってくれてたんだっけ？

**【澤田氏】**

対面でレインボーウィークを実施できたのが、ここまでだったんじゃないですか？

**【武田氏】**

そうやろね。だからこのときに。

**【飯塚氏】**

はい、作っていただいて。

**【澤田氏】**

うん、2曲。たぶん。歌っていただいたと思います。

**【武田氏】**

あの、関学のレインボーウィークのテーマソングというのを KeNyo さんと Lily さんにつくってもらって、この時やってもらって、すごく良い曲なので、まだ聞かれていない方はぜひ YouTube で検索して『ぐるぐる踊る』を聴いていただければと思いますね。今年のオープニングイベントでもきんきトランス・ミーティングとして Lily さんがパフォーマンスをしてくれたけれども、歌詞の意味です「てるてるお日様が〜♪」というのが、てるちゃんのことを表しているというお話をしてくださって、すごくやっぱり良い。この中央芝生で、青空の下でやっているオープニングイベントをやっているところを歌にしてくださった曲ですね。

**【飯塚氏】**

Lily さんと連絡を取る時におっしゃっていたのが、はじめ、てる子さんから依頼があったから続けてきたというのがあって。てるさんが、そういう繋がりを作ってくれたというのをすごい大事にしたいとおっしゃっていました。毎年オープニングイベントにきていただいて、演奏をしてもらって、すごい大変だと思うんですよ。そういうのも、このてるさんの繋がりとかがすごい大きいんだなとやっていて感じます。

**【武田氏】**

てるちゃんがいろいろとこう繋げてくれていて、この年やなくて、もうちょっと前やったと思うけれども、僕がもう一つレインボーウィークですごく印象に残っている曲が岡嶋さんが集いで『だいじょうぶ』という曲を歌ってくれて、あれもすごいてるちゃんがいつも言っていることを歌にしてくれたんじゃないかなと思うんですけれども。ちょっと岡嶋さん、そのあたりを。

### 【岡嶋氏】

はい。2019年の多様な性を祝う集いの時ですね。てる子先生の思いというのはものすごくあって、直接的というか土台にしたのは、私が今関係している重度身体障害の方がいるのですけれども、その方が本を書いているんです。その方は在日の方で重度障害も持っていてという方なんですけれども、その方がその本の中で「だいじょうぶ」というフレーズを何度か使っていて、それがすごく何というのかな、本の中でうまい文脈の中に込められているというのがあって、それに私が触れたときにこれは障害があるからとか、何か一つの課題にだけ言えるんじゃないなと思ったことがあるんです。多様な性を祝う集いのプログラムをいろいろと考えているときに鳥井新平さんに登場してもらおうということになって。鳥井新平さんをお願いをしたときに、「お願いします、『テルちゃんブギ』を歌ってください、お願いします」と言ったら、「良いですよ、でも、その代わり、岡嶋さんも歌ってください」と言われて、「えっ？あっそうなんですか？」みたいな感じで、「一緒に歌を作ってくださいませ」ってなって。で、それで、どうしようかなと思ったときに、そのてるちゃんの想いと、私がおの方と関わりを持つようになったのもてるちゃんが背後に居るといふか、てるちゃんが居たからこそ関わりを持たせてもらうようになったんですけれども。そういうことを考えながら、てるちゃんが私にくれたもの。そして、今、くれたものの中で私が関わっている人の中で紡ぎ出した言葉が『だいじょうぶ』のあの詩だったという感じです。作詞は私と鳥井新平さんがして、作曲は鳥井新平さんがして。という感じで、歌わせてもらいました。

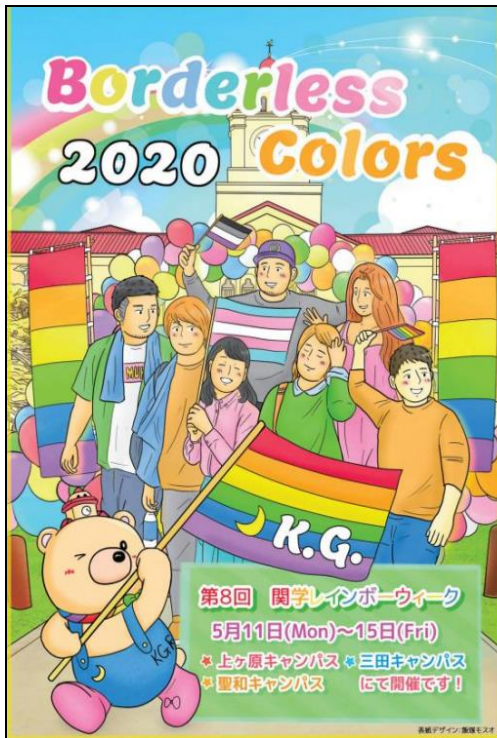
### 【武田氏】

あの、てるちゃんがね、亡くなって天国に旅立ったあとに、すごく慕われていた人なので、何回もてるちゃんを思い出す、覚えるイベントがあって、そこでみんな思い出を語っていくんだけど、何人かの方がいろいろ悩みを抱えててるちゃんに相談をした時に、てるちゃんはいつも『あんたは、あんたのままでええねんで』ということを書いていて。それはまあ「あんたは、あんたのままで大丈夫なんやで」という、なんかそういうメッセージで、そこにすごく繋がっているなと思って。僕は岡嶋さんが歌ってくれた、あの曲はすごく素敵だなと思っていました。はい。

では、どこまで行ったかな？2019？2020？今のが2019？これが2020やね。

2020年はコロナで春にやるのができなくなったんですね。それで、秋に延ばして、この時はオンラインで本当にほとんど何もできなかったね。この同性婚の田中さんの講演会ぐらいだったかなあ。

交流会はオンラインでやったのかな？「交流会」と書いてあるけれど。やらなかったのかな？交流会は。やってないのか。



新型コロナウイルスのため、2020年10月5日(月)~10月9日(金)オンラインにて実施

■大学主催秋季人権問題講演会

演 題:「ぼくらが同性婚を求める理由。」

講 師:田中 昭全 氏(アーティスト)

■パネル展@本学人権教育研究室のホームページ

■LGBT関連図書の展示@3C図書館&千里国際キャンパス図書館

■交流会

(2020年第8回KGRWのチラシとプログラム)

【織田氏】

酒井さん、交流会これ覚えてる？2020年、卒業してない？

【酒井氏】

4年の時ですよたぶん。いや、たぶん私の記憶の限り、現地で対面での交流会はやってないと思います、たぶん。もう本当に自分が所属をしていたゼミとか、授業とかも全部オンラインだったので学校自体にあまり行けなかったと思います。

【武田氏】

そうやね、春は完全になしで秋もね、小さいクラスぐらいだったもんね。

【酒井氏】

です、です。

なので、交流会はなんかオンラインでやったのかもしれない。ちょっと私参加ができていないので分からないですけども。

【澤田氏】

たぶん、レオナちゃんとかが中心になってオンラインでやってたかと思います。

【酒井氏】

ああ、オンライン。オンラインでやっているよね。



【武田氏】

で、レオナちゃんは来てないの？

【織田氏】

笑

【澤田氏】

笑。そうですね、たぶんお仕事かな。

【武田氏】

仕事で忙しいかな。それはそうやな、はい。

えっと、2021年、去年ですね、2021年は。テーマの『PRIDE』というのは、モスが提案をしてくれたね、これ。



第9回関学レインボーウィーク  
**PRIDE**  
2021年5月17日(月)～21日(金)

■オープニングイベント【新型コロナウイルスのため中止】  
■パネル展@3C  
■関学生10000人に聞く！！ジェンダー意識調査  
■LGBTQ+についてもっと知ろう！  
■LGBT関連図書の展示@3C図書館&千里国際キャンパス図書館  
■映画上映会&ミニ解説  
『ぼくが性別「ゼロ」に戻るとき～空と木の実の9年間～』  
■パネルディスカッション「当事者の座談会」  
■交流会  
■オンライン映画上映会『カラコエの花』  
■公開シンポジウム「誰一人取り残さないために～SDGsと多様性尊重の取り組み～」  
■多様な性を祝う集いーともに祈る@ランバスチャペル&オンライン

表紙デザイン：藤原モス

(2021年第9回KGRWのチラシとプログラム)

【飯塚氏】

はい。

【武田氏】

どういう思い入れ。

【飯塚氏】

なんか、いつもキャッチコピーが長いからシンプルのほうが伝わるかなあと思って。ベタかもしれ



ないですが、『PRIDE』を出しました。

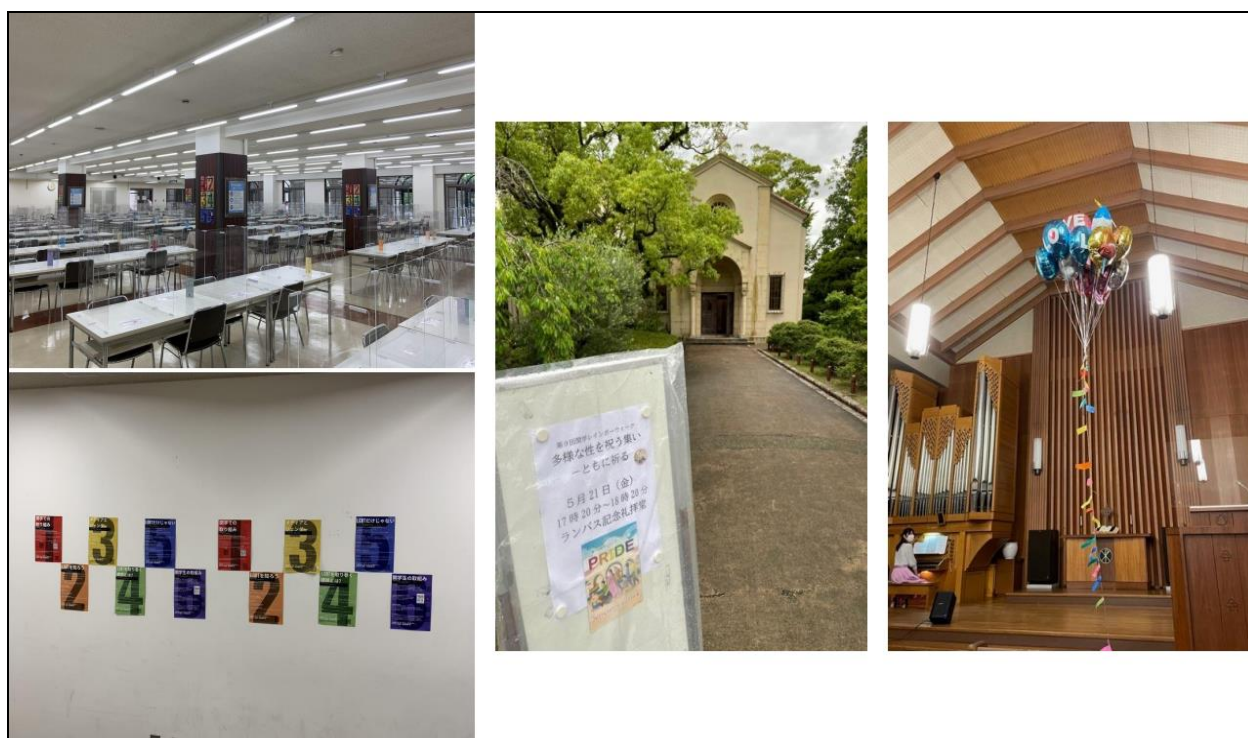
何をやっているのかということちゃんとメッセージとして伝える時に、短くてサッと伝わるようなものが良いんじゃないかなと思ったのがキッカケだったと思います。

### 【武田氏】

「シンプル」が良いですね。で、えっと、この年からかな。HeForShe KG という学生団体が参加をしてくれて、このポスターよね。今左側に写っているポスターですけれども、こういうのを展示してくれるようになったというのも新しい最近の動きかな。学生がいろいろこうしてくれるようになったということと、それから 2020 年 4 月にさっきも言ったけれども行動指針(ガイドライン)を関学が発表をして、それを記念した公開シンポジウムを開催してもらった。セクシュアリティのことを全面的に出したものではありませんでしたけれども、何でこれを僕が企画をしたかと言うと、要は学長に「行動指針に基づいて関学は頑張ります」ということの宣言をしてもらいたかったんで、それをできたので良かったかなとは思っています。これからこれを盾によりよいインクルーシブなキャンパスに変えて行こうとは思っていますけれどもね。まあこういうシンポジウムも去年はやりましたね。

これは集いやね。一番右の 2 つの写真は多様な性を祝う集いで、これは薄井さんがやってくださって。まだ、去年の秋は、うちは結構オンラインで授業をやっていたので、参加者も少なかったですが、フランスにも Zoom で繋いでやりましたね。

最後は今年かな。今年 10 周年ということで、今年のことば澤田先生にちょっとお話をしてもらおうかな。中心になってやってもらったので。



(2021 年第 9 回 K G R W の HeForShe KG によるポスター掲示 & 多様な性を祝う集い)

関西学院大学主催  
存学人権問題講演会

公開シンポジウム「誰一人取り残さないために  
～SDGsと多様性尊重の取り組み～」

＜「関西学院インクルーシブ・コミュニティ実現のための基本方針および行動指針」制定記念＞

「関西学院インクルーシブ・コミュニティ実現のための基本方針および行動指針」の公表に伴う本学院の多様性尊重の取り組みを組み合わせるとともに、先進的な取り組みをされている企業や大学の事例をご紹介いただき、SDGsの観点からこれからの多様性尊重のあり方を議論する。

2021年5月21日(金) 13時から15時まで

場所 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス中央講堂

主催 関西学院大学 共催 関西学院大学人権教育研究室

協賛 関西学院ダイバーシティ推進本部 後援 西宮市

協賛 関西学院SDGs推進本部

Zoom  
ウェビナーでの  
お申し込み可

■プログラム内容

13:00-13:10 学長挨拶「関西学院大学とSDGs」  
村田 治 (関西学院大学 学長)

13:10-13:20 「関西学院インクルーシブ・コミュニティ実現のための基本方針および行動指針」の概要説明  
望月 康恵 (人権教育研究室 室長)

13:20-13:30 ダイバーシティ推進本部の概要説明  
柳原 孝安 (ダイバーシティ推進本部長・常任理事)

13:35-14:55 シンポジウム「SDGsと多様性尊重の取り組み」

① バリアフリーー障害を価値に変えるー  
堀内 俊哉 (株式会社ミライロ 代表取締役社長)  
国籍、性別、年齢、身体特性や能力などの多様性をかえるユニバーサルデザインの考えのもと、社会に新たな価値を創造する。コンサルティング事業を展開しているミライロの取組紹介。

② 早稲田大学におけるダイバーシティと学生支援  
下田 啓 (早稲田大学スチューデントダイバーシティセンター長)  
ダイバーシティの観点から、早大学生部におけるセクシャルマイノリティ学生・留学生・障がい学生支援についての紹介。

③ パネルディスカッション  
世界的にSDGsの推進が進められる中、これからの大学、企業、または社会に求められることについて、望月氏、堀内氏、下田氏の3名でパネルディスカッションを行う。

村田 治 望月 康恵 柳原 孝安 堀内 俊哉 下田 啓  
関西学院大学 学長 人権教育研究室 室長 ダイバーシティ推進本部長・常任理事 株式会社ミライロ 代表取締役社長 早稲田大学スチューデントダイバーシティセンター長

問合せ先 関西学院大学人権教育研究室 TEL.0798-54-6720 (平日8:50-11:30・12:30-16:50)

(2021年第9回KGRWの公開シンポジウム)

## 【澤田氏】

ちょっと「10周年」は大役過ぎませんか？

少しだけ戻らせていただくと、やっぱり第9回目のあたりから、本当にいろいろな方が参加されるようになってきていて、今年の上映会では映画監督の東海林さんと俳優のイシヅカさんが来てくださいましたけれども、この時も『label X』というXジェンダーの当事者のサークルの方が持ち込み企画で上映会と解説をしてくださいました。

『label X』の諏訪崎さんが来てくださって、『ぼくが性別「ゼロ」に戻るとき～空と木の実の9年間～』という、この映画を上映して、プラス解説もしてくださってというような形で、レインボーウィークという取り組みを知って、自らアプローチをしてくださったという意味でも印象に残っています。

あと、『カラコエの花』というオンライン上映会の企画もありました。これは教育学部の学生の永江さんが自ら絵本をクラウドファンディングで作成していて、その学生が企画したものでした。絵本の作成については、自分自身が学校へ行けなかった時とかの体験なども踏まえて、子どもたちに絵本を通じて、性の多様性とかLGBTQのお話を伝えて、小学校とか幼稚園とか小さな時から本人も周りの人にも知ってもらえない、理解されない状況を変えていきたいというようなことも言っていて、そのために絵本の図書館への配架や読み聞かせを通して、伝えていきたいんだということで活動しておられました。この永江さんが絵本を作っているということを伝えて、なおかつ『カラコエの花』という上映会をして、学生同士でディスカッションをしたりする場所をつくりたいというアイデアを提案して実施してくれました。これもやっぱり学生発信の企画で、なんかこの頃から、いろんな人たちが自分たちの企画を持ち込んでしてくれるような、そういうのが段々と活気づいてきたといえますか、そんな印象が残っています。そして今回ですね。

第10回目は、ずっと武田先生がやってくれているのは変わらないのですけれども、なんか、そろ

そろ、司会ぐらい変わってや、ということで、私が司会進行するようになったのですけれども。参加をしてくださる学生さんたちも本当に増えたのですが、オンラインが続いていたこともあって、Cassis というサークル組織のメンバーが非常に少なくなっていました。対面でランチ会もできなかつたですし、会わない中で大学のサークルとして活動をあまりされていなかったと思うので、いつもだったら関学レインボーウィークの企画というのは、この実行委員の中心に Cassis が居たのですけれども、Cassis のメンバーに入ってもらおうと思っても、声をかけてもなかなか反応がなくて、いやいや誰もいける人が居ないんですというお話になりました。大学院生の方に最終的に声をかけて繋いでいただいたのですけれども、この 10 周年というイベントで本当はもっと Cassis の方に入ってもらえる形にしたかったなと思っていますところがあります。最初は教員と昨年から参加してくださった学生団体 HeForShe KG さん、あとは、性の多様性とか、LGBTQ+ のことに関心があり、こういった活動を一緒にやっていきたいというアライの学生が増えてきたと思います。そういう中で武田先生のゼミに入る学生さんであったり、私のゼミに入っている学生たちが“何かやりたい！”ということで、“ホームページを作成しよう！”“SNS でインスタを始めよう”と企画してくれました。留学生の方で入学前からこの「レインボーウィーク」を知っていて、この活動に関わりたくて、中国から留学してきたみたいな。そんな学生さんまでいて、今回すごく素敵なホームページを作ってくくださったのですけれども、そういう学生さんが来て、ホームページを作成したり、ここで言うダイバーシティイクイズという企画も立ち上げてくれました。この活動は、一部の人たちがやっていて、やっぱり一般学生が、この「レインボーウィーク」を知らないまま終わっていきやすいという状況も少しあったのですけれども、みんながもっと参加しやすい、そういう参加型にしていくことで、この活動を知ってもらって、関わっていくことから始めてもらいたいという想いで、ダイバーシティイクイズを作ったり、インスタグラムの発信をしたりとか、いわゆるアライの学生たちがやっていってくれたというのが今回の活動は私にとっては印象深かったところだと思います。

そういう意味では、私が関わりだしたのはたぶん第 5 回目ぐらいからかな。2017 年ぐらいから実行委員会に入れていただいたのですけれども、実際にこの 10 周年のところでは、学生さんたちが結構たくさん入って活動していたと思います。

あとはですね、今回は人権教育研究室の職員であるの上更家さんがすごい勢いで頑張ってくださいまして、「階段ラッピング」や今回のオープニングイベントの「バルーンアーチ」とか、少しお金のかかるものを、思い切って購入して後押しして下さって、そういう実行力がすごいと思いました。提案をしても実行委員会だけでは動かしにくいところがあるので、上更家さんが、やっぱり、北山さん（元人権教育研究室職員）じゃないのですけれども、「もうこれから先も毎年やって行くんだから良いんじゃないですか」といって、予算を執行できるように動いて下さって、交渉もして下さって、おかげですごくビジュアル的に、学生さんたちが見てパッと分かる形で旧学生会館、新学生会館、それから図書館に展示されました。こういうレインボーのラッピングは、きらきらアライみたいな感じですが、すごく申し訳ないのですけれども、やっぱりそういうふうに見せていくということも大事なのかなというところでアピールできたのかなと思います。

それと、もう一つ大きなイベントとしては、映画上映会ですね。今回、日本語教育センターのほうでお仕事をされている宮崎聡子先生がこの映画上映会の開催に向けて、ずっと交渉に動いて下さって、『愛と法』という、まだ上映中のような映画の上映会を開催できました。また、『片袖の魚』は昨日実施した上映会ですが、映画監督の東海林監督とイシヅカユウさんという俳優さんにも登壇してトークイベントをしていただいたのですが、こういった目玉になるような企画もやっていただいて、



今回 10 周年で、本当にプログラムが充実した形になったかなあとと思います。

また、レインボーウィークの準備や実行を進める裏側で SOGI 研究会というような形で、織田ちゃんとかモスさんが入っている武田先生が研究代表をしている科研の研究会を実施していく中で、調査も並行してやっていたので、レインボーウィークの歩みとこの 10 年間のキャンパスの中の変化がどのように認知されているのか、これからどのように変えていくべきなのか、先ほどのインクルーシブ・コミュニティを作っていくための動きとして考えていくことができたように思っています。

はい、ということで、10 周年のプログラムについてはそんな感じかなあとと思います。



- オープニングイベント@@西宮上ヶ原C
- パネル展@3C
- ダイバーシティクイズ
- 関学生10000人に聞く!! ジェンダー意識調査
- LGBTQ+についてもっと知ろう!
- LGBTQ+関連図書の展示@3C図書館&千里国際キャンパス図書館
- LGBTQ+関連絵本の展示@西宮聖和C
- 階段ラッピング@西宮上ヶ原C
- 映画上映会『愛と法』
- 当事者によるイベント(交流会&パネルディスカッション)
- 映画『片袖の魚』上映会&トークイベント
- YouTuberかずえちゃんのトークイベント(人権問題講演会)
- 10周年記念パネルディスカッション

(2022 年第 10 回 KGRW のチラシとプログラム)

### 【武田氏】

一応 10 年振り返ったのですが、参加されている方でここもう少し聞きたいとかという質問があればチャットに書いていただければと思いますが、別にないですかね。登壇者のみなさんから何かこれはもう少し言っておきたいとかあれば。

### 【小林氏】

すみません。最後に全員一言ずつ、振り返ってみてどうだったかというのをみなさんに聞いてみたいです。

### 【武田氏】

振り返ってね。1 番最後はこれからのレインボーウィークに期待していることを言ってもらおうと思うけど、その前に振り返って。

### 【小林氏】

それと一緒にいいのですが、はい。

**【澤田氏】**

少しここで振り返って、阿部先生からお願いできませんか。

**【阿部氏】**

武田さんも言っていて、また武田さんとはずっと、澤田先生もそうですが、人間教育研究室の会議の場で「関学レインボーウィーク」が今どのように進んでいるのか、開催後にどうだったのかということ報告してもらって、研究室メンバーが認識、共有してきた。そこで僕が1番感じたのは、どうしても最初はとにかくこれを立ち上げるのだとの強い思い。2回目以降は、とにかくこれを続けるのだ、と。やはり人権教育研究室としては組織のある種の論理として、教育研究室がやっているだけではなくて全学として取り組んでいることを重視してきた。だから学長や院長も巻き込んで行う方がいいと思ってやってきたところはあると思うのですよね。特に初期においては。

ただ、そのときに僕も、おそらく武田先生も痛感したのは、そのことが最も中心にいるべき当事者の人にとってどう映っているのかとか、そのことがどういうことを引き起こしているのかということに対する感覚なり認識が欠けている部分があったなというのは個人的には反省していて、今もそれを考え続けているというところですよ。

と同時に、「きらきらアライ」とは本当にいい表現だと思うし、僕もゼミで多様性とかダイバーシティということを学生が発表するのを聞いていると、その危うさを感じることは正直多いです。ただ同時に、こういうイベントとしてすることの意味もやはりあるかなと思ったのは、ちょうど今週の月曜日に4回生のゼミがあって、今はグループ研究の最終段階なのだけど、グループごとに相談しているときに多様性を取り上げているグループのある学生が、「いや、先生まだまだ多様性の認識が自分達が思っているほど広まっていないところがあります」と言う。「どうして?」と聞いたら、その日の授業は午後だったのですが、「午後の授業に来るときに中芝を歩いていたら、今日ちょうどレインボーのやっていたのですが、文学部の前で学生が話しているのを聞いていたら、「え、あれ何やってんの?」「レインボーウィークやで。」「え?それ何?」ということをしていました」と答える。社会学部の自分達は社会学部でそういうことを学んだり、こういうイベントを見て知っているが、他学部の学生はそれほどではない。その学生の目にはそう映ったのですよね。僕から見れば「知っている」ということにはまだまだ課題はあるとは思っただけけれども、やはり目に見える、また目に触れることがキャンパスの中にあるということは、やはりきっかけ、もちろんその後そこからいろいろなことが起こらなければいけないけれども、それでもきっかけとしては意味はあるのかなという気は改めてしました。

当初から考えていたのは、ある意味で場所をジャックするということですかね。だからやはりゲリラライブを中芝でやりたかったし、中芝でウィーク期間中はずっとこういうふうに見えるようにすることにこだわった。改めて思ったのですが、今では関学の図書館のエントランスのところにいろいろな展示をするのは当たり前になっているけど、当初はそうではなかったのですよね。僕の記憶ではやはり当時のセクシュアルマイノリティの写真展示とかが、おそらく最初じゃなかったかな。そういうことも北山さんが図書館と交渉してくれて、そのおかげで今は既成事実としていろいろなことのイベントをやれることができるようになった。あれもやはり場所のジャックですよ。みんなが通る場所に、あえてそれを置く。そうすれば何かコメントを残してくれるとかね。変な言い方ですが、



否が応でも目に入ってくる、そういうことを地道にずっと続けていくことが必要だし、武田先生が中心になって作っていただいた行動指針もそういうことなのですね。トイレの表示をどうするかとか、健康診断のときにどういう配慮をするとかか、そういうことが実はとても大切であると。それはセクシュアルマイノリティだけではなくて、障がいのある人に対してバリアフリーを物理的にどうやって保障するのかということも含めてね、そういうことをやはりこれからもやっていく必要がある。その1つの中心となる活動としてレインボーウィークというのはさっきも言っていたように、「みんなにとって“レインボー”とは何を意味するのか」ということを考える、そういう機会であり続けることは必要な、と改めてみなさんの振り返りを聞いて思いました。

### 【澤田氏】

ありがとうございます。

一言ずつという形で振り返っていかうと思うのですが、和香さんからよろしいですか。

### 【小林氏】

はい、わかりました。10年間振り返るのはなかなか自分1人ではできなかったもので、こういった機会に参加させていただいて本当にありがとうございます。

最初に私が大学時代はアライの立場であって、そのあと当事者としてずっと活動しているとお話をしたのですが、みなさんのこの10年間の話を聞いて、やっと2008年までの大学生の自分の罪が許されたような気持ちですごくうれしいなと感じています。

正直なところをお伝えしますと、やはりまだまだこぼれ落ちている人はたくさんいるなというのはみなさんわかっているところではあると思うのですが、まだまだこぼれているのは今も続いているというのは変わらないところなのかなと思います。いつの時代になってもやはりこぼれてしまう人はいて、北山さんとか榎本さんの話がありましたし、また、私もたくさん友人を亡くしているので時代が変わるのを待ってはられないというのも正直。振り返ってもやはり10年前に感じていたまだかという気持ちがやはりまだ続いているなと感じました。

私自身も今の状況は実はセクシュアルマイノリティのコミュニティではオープンにしていなくて、自分自身もそのマイノリティの中でダブルであったり、トリプルマイノリティだなと感じることがたくさんあります。自分の居場所というのを10年経ってもまだ私は見つけられていないので、職員とか卒業生とか教員とか、大学に通っていないけどレインボーウィークを通じて関わっている人達が拾い上げてもらえるような網みみたいなものがもう少しあるとうれしいな、それに対して何かできないのかなと感じたこともあります。

私、神戸 IDAHO という路上アクションのイベントを1年に1回やっているのですが、関学レインボーウィークも1年に1回しかないものだと思うのですが、その1年に1回でかなりの方が勇気をもらえるというのは、振り返ってみて、“あ、神戸 IDAHO と一緒だ”と感じました。1回生だった子が学校やめようかな、こんな学校にいてもしんどいなと思ったときに来年も関学レインボーウィークあるかもしれないと思ったときに、あと半年がんばってみようかなとか、ちょっとあそこに行ってみようかなという綱みみたいなものがあるのだなと思いました。

最後に10年続いたことというのは、かなり説得性があるなと感じました。これはすごいことだと思うので、たぶん今日の会をまた纏められると思うのですが、他にどンドン、この10年間をもってして還元していく時代になったのだなとすごくうれしく思いました。そのような感じですか。すみませ

ん、まとまってなくて。

**【澤田氏】**

ありがとうございます。

モスさん、いいですか、順番にお願いします。

**【飯塚氏】**

みなさんの振り返りを聞いていて自分もいろいろ思い出すところがあって、まとまりがあまりなかったかもしれないので申し訳なかったのですが、やはり始め一生懸命立ち上げたところからいろいろな人が関わりを持っている中で、いろいろな転換期があったと思うのです。Cassisの当事者の人たちもしっかりと関わったときにきらきらアライの話があったりとか、さっき印象的だったというチャペルの代読の話も、やっていることは祭騒ぎと言ったら少し言葉悪いですが、パフォーマンスとしてやってても内実が伴っていないのではないかという声も、前から調査を続けているうえでもいろいろ言われていたことではある。それが当事者も1枚岩じゃないからいろいろな人の意見があるとは思いますが、常に運動とか活動をするうえでその人たちの声を聞きながら、運動を作っていくという姿勢は非常に大事だなと思いつつ、関学でこういうふうに大々的にやるというのもデータでもあるように、すごく支えられているという声を聞いたりとか、大変意義があることではあると思うので、そういうのも大事にしながら、試行錯誤ではあるとは思いますが、今後も続いていってくれたら、非常にいいなと思っています。

**【澤田氏】**

ありがとうございます。じゃあ岡嶋さん、お願いします。

**【岡嶋氏】**

本当にいろいろな方が関わってくださって、私は立ち上げのときとか詳しく知るのは初めてだったので、とても貴重なことを聞かせていただいたということと、それをこうやって10年後に振り返る。それを記録に残すということの大切さ、重みというものを感じさせられました。そして、その10年という間の中に私も関わらせてもらったこと、そもそも関学レインボーウィークに出会わせてもらったことは本当にありがたいと思います。北山さんもてる子さんもそうですが、亡くなった方も含めてここで関学レインボーウィークを通して出会った1人1人にありがとうございますし、これからも一緒に歩んでいきましょう、よろしく申し上げますと言いたいです。

特に私はキリスト者としての立場から関わる・考えることが多いのですが、キリスト教というものが性のマジョリティではない人たちを抑圧したり弾圧したりという歴史が本当に長い間繰り返されてきた。今もまだ繰り返されているという現実があるということを見ると、やはり関学だからこそ発せられるメッセージがあるのだろうなと思うのです。

キリスト教とセクシュアリティというのが全く相反するものではないのだよというメッセージをどうぞどうぞ発し続けていってほしいなと思うのです。なので多様な性を祝う集いだけではなくて、関学レインボーウィーク自体がキリスト教とセクシュアリティの関係性を全面的に押し出していってくれる場であってほしいなと思うのです。

第一義的には関学にいる人達のためのイベントだとは思いますが、私としては、関学から外に発

せられるような、向けられるようなレインボーウィークであればなど期待しています。これからも機会があればぜひ関わらせていただきたいと思うのですが、年寄りは一さっさと引っ込めということもあるかもしれないので、そこらへんは様子を見ながら関わらせてください。お願いします。ありがとうございます。

**【澤田氏】**

ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします。

それでは、織田ちゃん、お願いします。

**【織田氏】**

立ち上げるとか言える人ではないので、今日はいろいろな人が関わりながらいろいろな思いを持ちながらこの10年間続いてきたんやなということで、それ自体がすごい大事な事かなと思っています。

やはりレインボーウィークがあるというので勇気付けられる人がいるというのは本当にそれは確かやし、大学としてちゃんとしますという姿勢をこれは見せているものやと思うので、関学はこういう大学やねん。だからという、根拠ではないけど、それがあって励まされる側面があるかなと思うし、それは当事者だけではなくて、さんざんきらきらアライという言葉が出ていたけども、何かするきっかけになって、今すぐに学生の生活がよくなるのは個人的にはあまり思っていないのですが、それが長期的に、今学生をしている子たちが働き出したりとかしてそこまで関わっていく中でもしかしたらいろいろな人がいるかもという、そういう知識を得る場としてそういう機会を提供しているのではないかとと思っています。

あとは個人的に Cassis の人を増やすじゃないけど、そういうつながりをつくるうえでも、Cassis は広報がほぼないのでその中で代わりにレインボーウィークが頑張ってくれているなとは思っています。自分は関わる中で少し批判的なことを言うことが多かったというのがあって、それはそれで申し訳ないなと思うのですが、関わりの中でやめたほうがええんちゃうとか、関わって傷つく経験をしてしまうという学生もやはりいたし、レインボーウィークが関係なしに学生の生活の中で、授業の中で嫌がらせを受ける。授業行かれへんくなる、単位を落とすという話も自分のときですけれども、そういう学生が現にいるというのは現実としてあったし、たぶん今もきっとそれはあると思うんです。

でも、はたから見たらすごい先進的な取り組みしてるよね、関学ってすごいみたいなこと言われる。いや、でも内部そうちゃうねんというモヤモヤはずっとあって、でも私はそれをミーティングの場とかで言ったりはして、それが言っぱなしで終わっているんじゃないかと、その意見を踏まえたうえで武田先生ってすごい、絶対おれが武田先生の立場やったら嫌やなと思うのですが、それを踏まえたうえでじゃあ変えていこうとなっているというのは、まだ「あかんくない？」ということと言える土壌があるというのはすごいいいことかなと思っているし、今後もその意見を聞く姿勢が常にあってほしいというのが自分の思いとしてはありますし、このままずっと続いていって関学の中だけじゃなくて、地域だったり他の大学にもこれが広がる。レインボーウィークという形じゃなくても、やはりセクシュアリティのことって大事やねというのが社会としても共有してされていければなどは思っています。そのような感じです。以上です。

**【澤田氏】**

ありがとうございます。  
では酒井さん、お願いします。

### 【酒井氏】

ラストのほうなのでほぼほぼ言いたいこと全部言われちゃっているのですが、今日の10年間の歩みについて、みなさんとディスカッションできたので振り返ることができていい機会になりましたという気持ちが1つあります。

私が卒業して関学のメインに携わることはあまりできないし、外から卒業生として見て思うのは、やはり関学のレインボーウィークは私個人的には大学生だけに向けたものであってほしくないなというのを思っていて、なんでかと言うと、私自身が高校生のときにこの関学レインボーウィークというのを知って関学に入ろう。それだけじゃないですけど、関学に入りたいと思ったきっかけの1つだったのです。なので、関学レインボーウィークを進めていって、大学の関係者の人がどんどんインクルーシブな学校になっていってほしいと思うのですが、それだけでとどめるのではなくて、まだ大学に入ってきてない高校生とか中学生とかにもどんどん発信していってほしいというのがあります。あと、個人的には社会人になって今思えばめっちゃありがたかった、レインボーウィークだけではなくて関学のこの環境というのが会社に入ってからだとありえないくらい恵まれた環境で4年間いさせてもらったと思うので、高校生とかだけではなくて他の社会全体に向けて発信できるように、関学から他の社会に発信できるようになってくれたらいいなと思ひまして、Cassisもかなり今人数も減ってきて、コロナも落ち着いてきて対面でランチ会とかもできるようになってきているので、卒業生OGとしてはCassisの存続してほしいなと思ひます。以上になります。

### 【澤田氏】

ありがとうございます。

では、残り時間があと1分となりましたので、そろそろ締めくくりをと思ひますが、最後、武田先生いかがでしょうか。

### 【武田氏】

みんながいろいろ言ってくれたのでそれで終わってもいいと思ひのですが、このレインボーウィークって5月に開催しているので前の年の10月くらいから実行委員会を始めて、月に1回くらいかな、ミーティングをして準備を進めているのですが、大変なことは大変です。大変だけど、この10年間、2回目は僕は関わっていないのですが、そんなに大変だとは思わなくて、学びも多いし一生懸命やってくれる学生だとか教職員の方がいらっしゃるのですごく楽しいのですが、やはりさすがに実行委員会の雰囲気重かったときがあつて、織田ちゃんがさっき恐縮していたけど、あれはあれですごくよかったと思ひのですが、そのときに僕は一瞬ですが、もうやめたいなと思ひたことがあるのですよ。しんどいなと思ひたときがあつて、それを宝塚大学の日高先生にチラっと言つたときに、「ここで関学やめてどうするねん」と。「やめたらどんなメッセージを他の大学だとか社会に対して伝えることになるか考えてみ」と言われて、そうだなと思ひて。

今日もこの10年を振り返つてみんな言つてたけども、北山さん、てるちゃんはじめ、本当にいろいろな人にサポートしてもらつてここまで来たのだから、やはりこれはずっと続けていくべきだと思ひます。中にはそつとしつてほしいという意見も聞くのですが、やはり訴えていって変えていく

ということをしなきゃいけないと思うし、何人かの人が言っていましたが、関学がこれをやって関学はすごい大学だということを目指しているのではなくて、うちの大学でできたら他の大学でもできる。他の大学もやったら社会が変わっていくというところを目指しているのがレインボーウィークだと思うので、これからもいろいろな人が協力してくれることを期待していますし、続けていくということはすごく重要だなと思っているので、引き続きみなさんご協力をよろしくお願いします。

**【澤田氏】**

はい、ありがとうございます。

では時間になりましたので、このあたりで本日のパネルディスカッションを終了とさせていただきます。

**【一同】**

ありがとうございました。

以上